

# 選べる社会の実現に向けて

赤磐市・桜が丘中1年

黒田 彩帆



なぜ女性の就業率は高まったのだろうか。一九九二年の調査で、「子供ができてもずっと職業を続けた方がよい」と答えた二十歳以上の女性の割合は約二十三パーセント。二〇一九年の調査では、それが六十一パーセントになった。たった二十七年で三十七ポイントも増えた。私はこの記事を見て、子供を産めば子育てで忙しくなるのに、なぜ働きたい人が増えたのだらうと思った。

私をはじめ、「子供ができれば職業をやめ大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という考えに賛成だった。もし自分が子供を産んだら、時間をかけて自分で育てたいと思ったからだ。けれども子供を産むかどうかで悩んだ時、ずっと

目標にしてきた夢が叶ったばかりだったらどうだろうか。一生懸命続けてきた仕事に、やりがいを感じていたらどうだろうか。そう考えた時、私は子供を産まず、仕事を優先したいと思った。努力してきたことを、そんなに簡単にはあきらめられないからだ。きっと今、子供と職業、どちらかを選ばなければならぬ女性は日本にたくさんいるのだらう。子供も大切にしたい、でも仕事でチャンスがめぐってくることはもうないかもしれない。そんな思いを抱き、苦しい思いをしている女性がいるから、このような結果が出たのだ。女性が仕事を続けることも子供を産むことも、社会にとって重要なことだ。それなのに、どちらかひとつしか選択できない社会は間違っている。

母は私が幼い頃は家にいて、今は私が学校へ行っている間だけ仕事をしている。母に仕事を続けたかったかを聞いてみると、「もし子供を産んだ後も仕事を続けていたら、どちらもうまくできない自分に自信をなくしていたと思う。けれど仕事をしながらでも子育てができる環境があれば、自分の人生はもっと充実していると感じていたかもしれない。」と言った。母もまた、選べなかった一人なのだ。

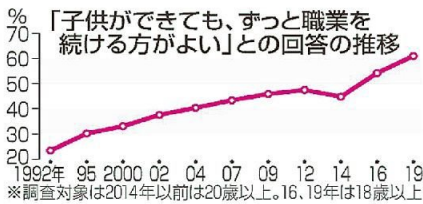
アンケートの結果は、子供を産んでも職業を続けていたい女性が増えていることを示している。女性が子供を産むか産まないか、仕事をやめるかやめないかの選択に迫られるのではなく、どちらも選べる社会の実現が期待されているのだ。

## 「子供ができてもしっかり仕事」61%

内閣府が15日発表した「男女共同参画社会に関する世論調査」によると、女性が職業を持つことに対する意識を尋ねる質問で「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」との回答は61・0％に達した。1992年の調査開始以来、過去最高。前回の2016年調査より6・8ポイント増えた。92年調査では23・4％だった。内閣府の担当者は「女性の就業率が高まり、『女性活躍』の意識が高まったことが背景にある」と分析した。

同じ設問で「子供ができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は20・3％。以下「子供が

### 男女共同参画調査 過去最高



できるまでは、職業を持つ方がよい」6・5％、「結婚するまでは職業を持つ方がよい」4・8％、「女性は職業を持たない方がよい」3・9％となった。

「ずっと職業を続ける方がよい」との回答の男女別は、男性58・4％、女性63・8％だった。

また「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」との考え方に「賛成」「どちらかと言えは賛成」との答えは計35・0％だった。「反対」「どちらかといえは反対」は計59・8％に上った。

育児を配偶者などのように役割分担したいか聞いたところ「半分ずつ分担したい」が56・6％でトップだった。

調査は今年9月、全国18歳以上の5千人を対象に面接で実施。回答率は52・9％だった。

2019年11月16日付 山陽新聞

## 寸評

自分はどうするだろうか、母はどう思っているのだろうか。女性が職業を持ち続けることについて記事をきっかけに深く考え、家族の話聞いたことで人の心に響く感想文となりました。